一般県道三刀屋佐田線朝原２工区道路改良工事に伴う
埋　蔵　文　化　財　発　掘　調　査　報　告　書

立岩小丸砦跡

平成 28 年(2016)2 月

出雲市教育委員会

序

本書は，島根県出雲県土整備事務所から依頼を受けて，平成26年度に実施した県道三刀屋佐田線朝原2工区道路改良工事予定地内に所在する立岩小丸砦跡の発掘調査の成果を記録したものです。遺跡の所在する出雲市佐田町は，出雲と石見，山陰と山陽を繋ぐ街道の要衝に位置しており，中世期には高櫓城跡を初めとして40ヶ所以上の山城跡が確認されています。

立岩小丸砦跡もそういった山城の関連施設と推定されてきた遺跡ですが，これまで詳細な調査が実施されたことは無く，その実態は不明のままでした。今回の調査においても，当初想定していた中世山城跡・砦跡としての積極的な根拠は見出せませんでしたが，古代から近代にかけての幅広い時期の遺物が確認されており，いにしえの時代から断続的に人々が利用し続けてきた場所であったことが判明しました。

こうした調査成果が，地域の歴史と埋蔵文化財に対する理解と関心を高めるための一助となれば幸いです。

最後になりましたが，発掘調査と報告書作成にあたりご協力いただきました地元住民の皆様や，関係者の皆様に厚く御礼申しあげます。

平成28年(2016)2月

出雲市教育委員会
教育長　槇野　信幸

例　言

1．本書は，平成 26 年(2014)度に出雲市教育委員会が実施した，県道三刀屋佐田線朝原 2 工区道路改良工事に伴う立岩小丸砦跡の埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2．調査は，下記の体制，期間で実施した。

調査地及び調査面積　島根県出雲市佐田町須佐 1615-5 ほか　約 200㎡

調査期間　平成 26 年 8 月 18 日～平成 26 年 10 月 9 日

調査体制

＜平成 26 年度＞ 現地調査

事務局　　花谷　浩（出雲市文化環境部学芸調整官）

　　玉木良夫（同　文化財課長）

　　宍道年弘（同　課長補佐兼埋蔵文化財 1 係長）

調査員　　須賀照隆（同　主任）

調査補助員　今若豊実（同　臨時職員）

発掘作業員　青中昭美，大輝正人，周藤俊也，星野篤史，持田佳子

室内整理作業員　前島浩子

調査指導　　深田　浩（島根県教育庁文化財課企画幹）

＜平成 27 年度＞ 報告書作成

事務局　　花谷　浩（出雲市市民文化部学芸調整官）

　　玉木良夫（同　文化財課長）※～ 6 月

　　佐藤隆夫（同　文化財課長）※ 7 月～

　　宍道年弘（同　課長補佐兼埋蔵文化財 1 係長）

調査員　　須賀照隆（同　主任）

整理作業員　前島浩子

3．本書の編集・執筆は，須賀照隆が行った。

4．本書に掲載した遺物及び実測図，写真は出雲市教育委員会が保管している。

5．本書で使用した方位は，座標北を示す。座標は世界測地系第Ⅲ系に基づくものである。標高は海抜高を示す。

6．本書で使用した遺構略号は次のとおりである。

SD －溝，SP －ピット，SX －その他の遺構

本文目次

第１章　調査に至る経緯と経過…… 1
第２章　遺跡の位置と環境…… 1
第３章　調査の概要…… 5
第４章　結語……11

挿図目次

第１図　主要遺跡分布図（1：50000）…… 2
第２図　調査地周辺の中世山城跡（1：7500）…… 3
第３図　調査区位置図（1：500）…… 6
第４図　遺構配置図（1：100）…… 7
第５図　土層堆積状況実測図（1：50）…… 8
第６図　ピット列遺構実測図（1：60）…… 8
第７図　調査区北西ピット群遺構実測図（1：60）…… 8
第８図　溝群遺構実測図（1：60）…… 9
第９図　火の見櫓関連遺構実測図（1：80）…… 9
第10図　出土遺物実測図（1：3）……10

図版目次

図版１　立岩小丸砦跡遠景（東より）　本調査前近景（北西より）
図版２　完掘状況（北西より）
図版３　調査区北西ピット群完掘状況（北東より）　SP20 遺物出土状況（北より）
図版４　ピット列（SP01 ～ 06）完掘状況（北西より）　溝群（SD01 ～ 03）完掘状況（南西より）
図版５　SX01 主柱穴（北西より）　SX01 南西アンカー穴（西より）
　　SX01 北西アンカー穴（北東より）　SX01 東アンカー穴（北東より）
図版６　SX02 主柱穴（西より）　SX02 北東アンカー穴（西より）　出土遺物

隠岐の島町
西ノ島町
海士町
知夫村
日本海
松江市
宍道湖
出雲市
安来市
雲南市
鳥取県
奥出雲町
大田市
飯南町
美郷町
江津市
川本町
邑南町
立岩小丸砦跡
浜田市
広島県
益田市
津和野町
吉賀町
山口県

出雲市の位置と調査地

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

県道三刀屋佐田線道路改良工事は，当該道路の改良整備事業として島根県出雲県土整備事務所が計画したものである。その事業地内の一部（朝原２工区）が周知の埋蔵文化財包蔵地立岩小丸砦跡の範囲内であることから，事業主体である島根県出雲県土整備事務所と出雲市文化環境部文化財課（現在の市民文化部文化財課）で協議を重ね，平成 26 年(2014)8 月より本発掘調査を実施することが決定した。

第２節　経　過

平成 25 年(2013)10 月 6 日，島根県出雲県土整備事務所より埋蔵文化財事前調査の依頼を受け，出雲市が平成 25 年 12 月 6 日，平成 26 年(2014)1 月 9 日に遺跡の範囲確認調査を実施した。トレンチ調査による確認の結果，遺構が発見されたため，翌年度に本調査を実施することとした。

本調査は，平成 26 年 8 月 18 日より開始し，同年 10 月 9 日に終了している。

調査後，島根県教育委員会との協議を行った結果，調査の原因となった県道三刀屋佐田線道路改良工事は，公共性が高く計画変更も困難であることから，遺跡を記録保存に留めることはやむを得ないとの判断に至った。

調査に関連する主な文化財保護法上の文書

平成 25 年（2013）

10 月 16 日　「埋蔵文化財発掘の通知について」事業者より市教委経由で県教委へ
10 月 25 日　「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について（通知）」県教委より市教委経由で事業者へ
10 月 30 日　「埋蔵文化財発掘調査の通知について」市教委より県教委へ※範囲確認調査

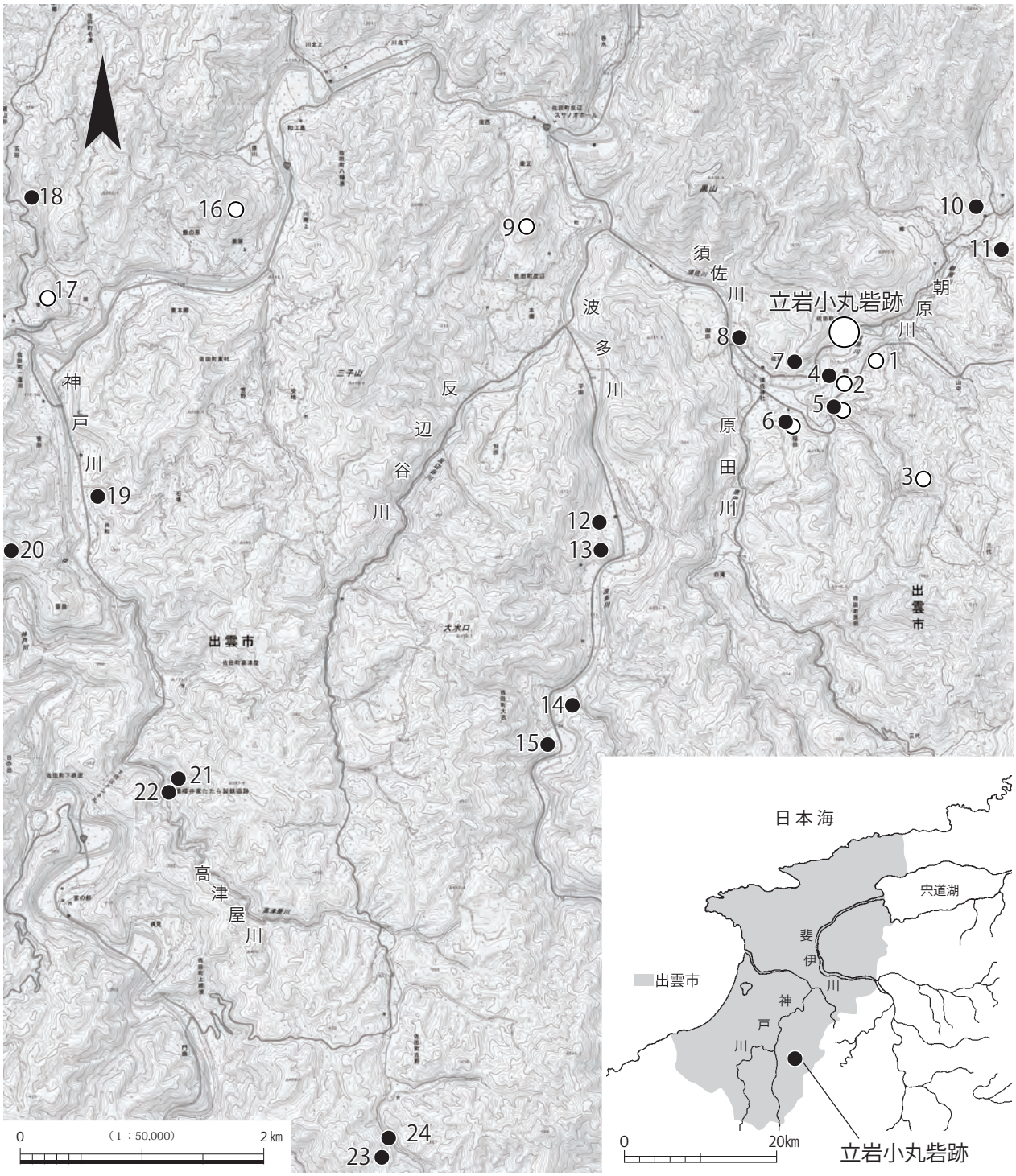
平成 26 年（2014）

8 月 1 日　「埋蔵文化財発掘調査の通知について」市教委より県教委へ※本調査
10 月 9 日　「埋蔵物発見届」市教委より出雲警察署へ
10 月 9 日　「埋蔵文化財保管証」市教委より県教委へ
10 月 9 日　「三刀屋佐田線（朝原２工区）改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調に係る遺跡の取り扱いについて（協議）」市教委より県教委へ
10 月 9 日　「遺跡の取り扱いについて（回答）」県教委より市教委へ
11 月 7 日　「埋蔵物の文化財認定及び帰属について（通知）」県教委より市教委へ

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境（第１図）

出雲市佐田町は出雲市の南端，中国山地の脊梁部と日本海沿岸部との中間に位置し，西は大田市，東は雲南市，南は飯南町に接している。古くから出雲地方と石見地方，山陰と山陽を繋ぐ交通の要衝である。中国山地に連なる 600 m級の山々を背景に神戸川及びその支流の浸食によって形成された河谷からなる中山間地帯であり，平坦地は極めて少ない。



1 立花城跡　2 旅伏山城跡　3 尾崎山城跡　4 塚脇遺跡　5 尾崎古墳群・横穴群ほか　6 塚松山古墳群・横穴群ほか
7 高松寺横穴群　8 佐田遺跡　9 高櫓城跡　10 切石古墳　11 大塚古墳群・横穴群　12 八幡古墳　13 茶磨山城跡
14 茶屋谷遺跡　15 坂本古墳　16 吉栗山城跡　17 伊秩城跡　18 銀山谷銅山　19 犬塚古墳群　20 橋ヶ谷墳丘墓群
21 朝日遺跡　22 田儀櫻井家たたら製鉄遺跡（朝日たたら跡）　23 梅ヶ谷尻たたら跡　24 梅ヶ谷鍛冶屋跡
＜凡例　○：山城・砦跡　　●：その他の遺跡＞

第１図　主要遺跡分布図（1：50000）

第２図　調査地周辺の中世山城跡（1：7500）

立岩小丸砦跡は，その東部にあたる佐田町須佐地内に位置し，西流して須佐川へと注ぐ朝原川の北岸丘陵先端部に立地している。

第２節　歴史的環境（第１・２図）

１　古墳時代以前　佐田町における遺跡の初現は縄文時代後期に遡り，朝日遺跡（21），茶屋谷遺跡（14），塚脇遺跡（４）でその存在が知られている。茶屋谷遺跡においては，弥生時代の集落跡も確認されている。

古墳時代になると，切石古墳（10），八幡古墳（11）といった横穴式石室墳をはじめとして，尾崎古墳群・横穴群（5）等，多くの古墳や横穴墓が確認される。

２　古代　奈良・平安時代の遺跡については明らかでないが，『出雲国風土記』（733 年）によると，現在の佐田町西部は神門郡余戸里，東部は飯石郡須佐郷となっていたようである。また，『風土記抄』（1683 年）では現在の佐田町須佐周辺に郷庁があったと推定されている。

３　中世　中世の遺跡としては山城跡が注目される。代表されるものとして，高櫓城跡（9），吉栗山城跡（16），伊秩城跡（17）等があるが，佐田町内全域では城跡砦跡合わせて 40 ヶ所以上の存在が知られている。中でも高櫓城は中心的な城郭であり，尼子氏の台頭期から毛利氏との攻防戦，尼子の復興戦までの舞台となった城である。立岩小丸砦跡の朝原川を挟んだ対岸にも多くの山城が存在し（第２図），その内立花城跡（1），尾崎山城跡（3）は高櫓城の支城と考えられている。

その他，生産遺跡として室町時代中期から開発されたと伝えられる銀山谷銅山（18）がある。

４　近世　近世の遺跡としては製鉄遺跡が注目される。代表されるものとして，田儀櫻井家たたら製鉄遺跡（朝日たたら跡）（22）があげられる。近世鉄師，田儀櫻井家は仁多櫻井家から分家独立して現在の出雲市多伎町奥田儀宮本の地に本拠を置いて活動したもので，朝日たたら跡は田儀櫻井家が操業した代表的なたたら場の一つである。その他，佐田町内全域では 40 ヶ所以上の製鉄遺跡の存在が知られている。

以上のように，佐田町には縄文時代以来の様々な遺跡が確認されている。中でも立岩小丸砦跡の位置する須佐周辺は，古墳や山城等の遺跡が密集する地域であり，奈良時代における須佐郷庁の比定地ともなっている歴史的に非常に重要な地域である。

第３章　調査の概要

第１節　調査の概要

１　調査方法の概要（第３図）

調査対象地は朝原川に面して南東に突出した小山の頂部約 200㎡である。本発掘調査は平成 26 年（2014）８月 18 日～ 10 月９日に実施した。調査は，調査区内を人力によって徐々に掘り下げ，土層ごとに遺構・遺物の確認を行った。

２　基本層序（第５図）

調査地における基盤層は砂岩質の岩盤を基本とし，堆積土は流土と表土が 20cm 前後存在していたのみである。近代に至るまで複数回の耕作や整地を受けているものと思われ，基盤層付近の堆積土においても近世～近代の遺物が確認される。

３　遺構の概要（第４図）

遺構としては，中世以降のピット群（SP1 ～ 27），近世以降の溝群（SD01 ～ 03），昭和 20 ～ 30 年代頃の火の見櫓跡（SX01, 02）等を確認した。ピット群の一部に中世期の可能性があるものを含むが，基本的には中世期以前のものとして時期の確定できる遺構は皆無である。

４　遺物の概要

出土遺物は僅少で，中世以前の遺物は須恵器片，土師器片等が数点確認されるのみである。その内，遺構内出土品は SP20 埋土上層出土の中世土師器片１点のみで，13 ～ 14 世紀頃のものと思われる。その他は近世以降の陶磁器片，時期不明の鉄釘等が少量出土している。

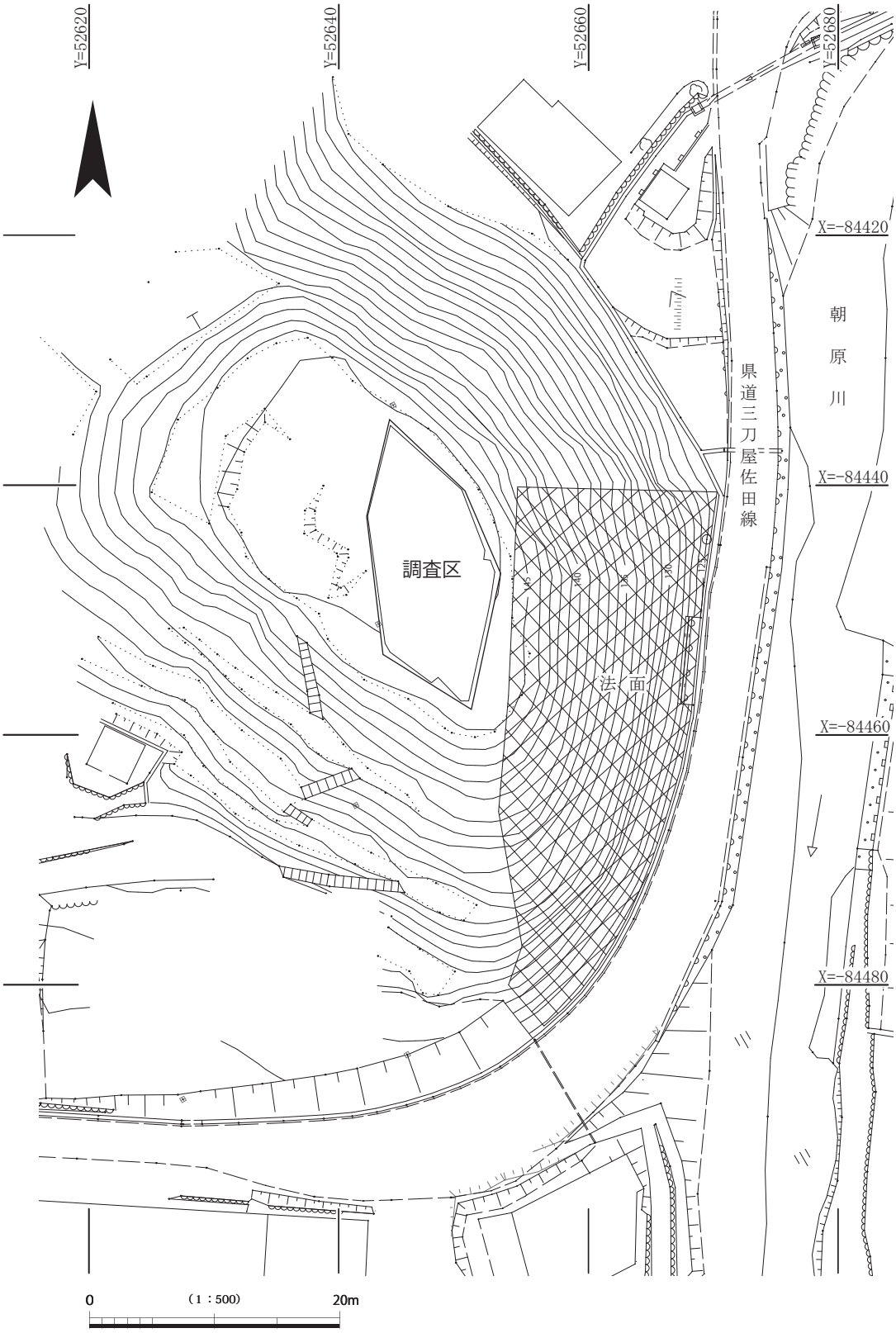
第２節　遺構と遺物

１　ピット列（SP1 ～ 6・第４，６図）

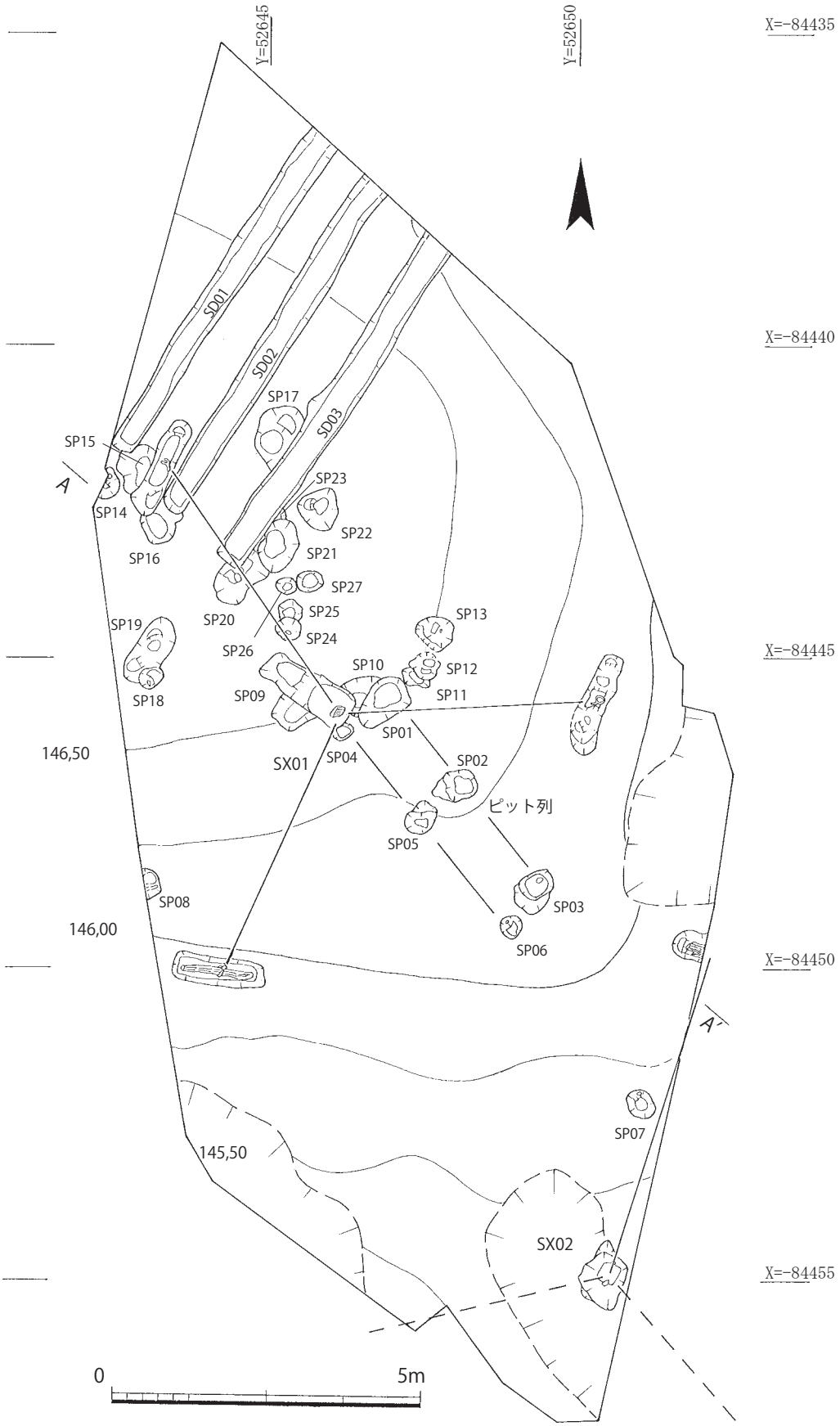
調査区中央部で確認された長辺約 2.1 m間隔３列，短辺 0.8 m間隔２列に並ぶピット列で，丘陵尾根にほぼ平行する北西―南東方向に軸をとる。北東側の列を構成するピットは，直径 50 ～ 90cm 程度，深さ 60cm 程度を測る。南西側の列を構成するピットは，直径 30 ～ 50cm 程度，深さ 30 ～ 50cm 程度を測る。北東側のピット列に比べ，南西側のピット列が小さく浅いものとなっている。遺物は存在せず，時期・性格ともに不明であるが，後述する近代の火の見櫓 SX01 の主柱へ向かって並んでいるようにも見え，櫓の付属施設であった可能性も考えられる。

２　その他ピット群（SP7 ～ 27・第４，７図，第 10 図－１）

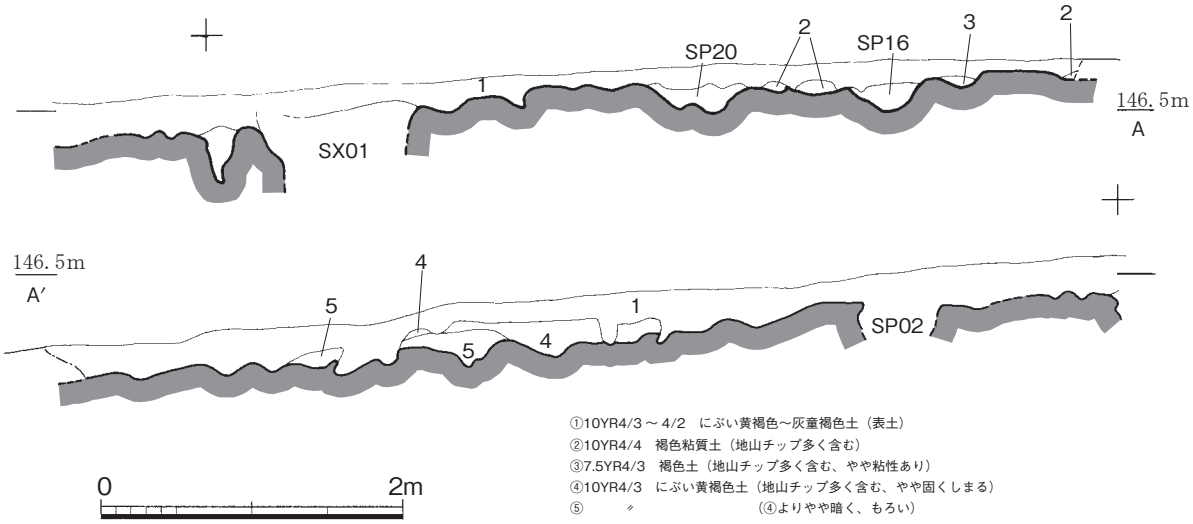
丘陵最高所を中心に調査区全域から前述のピット列とともに確認されたピット群である。比較的大形のピットとして調査区北西部で確認された，深さ約 50cm 程度の SP15，19，22，深さ 70 ～ 80cm 前後の SP16，17，20，21 がある。SP17，22 では柱の痕跡と思われる土層も確認できたが，調査区内において明確な建物配置等を確認することはできなかった。SP20 では 13 ～ 14 世紀頃の中世土師器片（第 10 図－1）が出土しているが，埋土最上層の出土であり，遺構の時期に伴うものかは不明である。



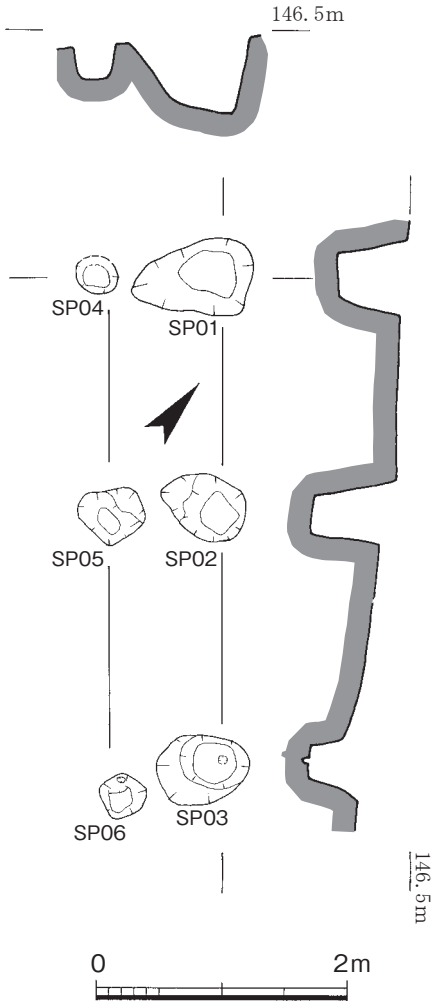
第３図　調査区位置図（1：500）



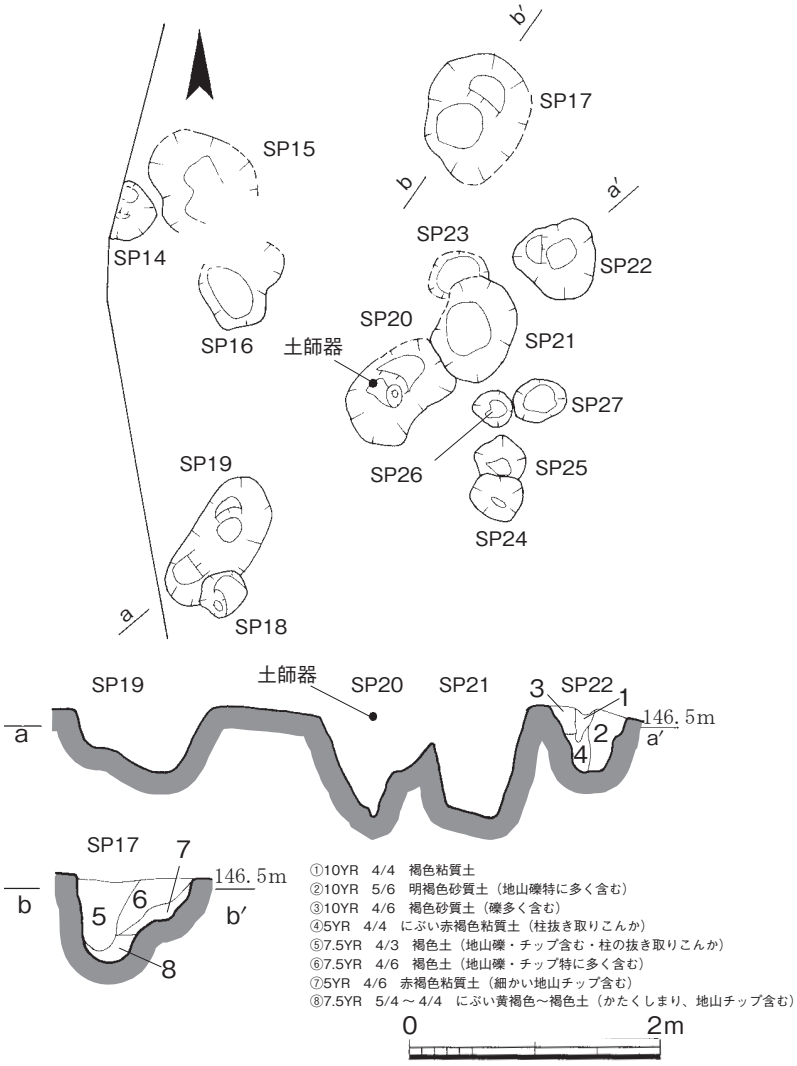
第４図　遺構配置図（1：100）



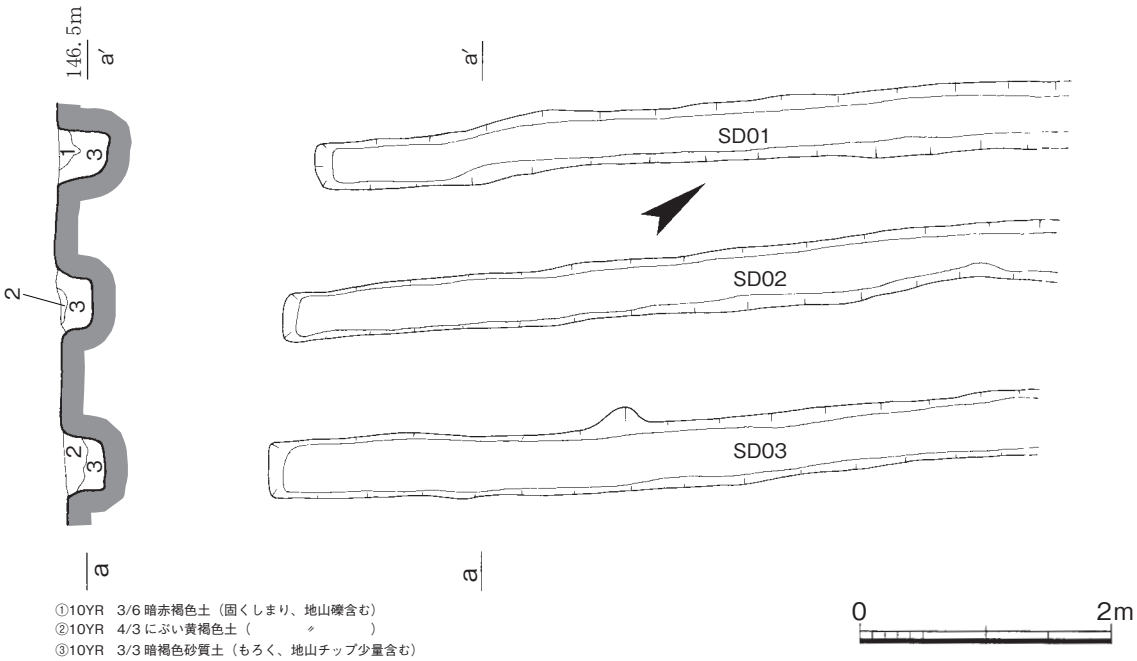
第５図　土層堆積状況実測図（1：50）



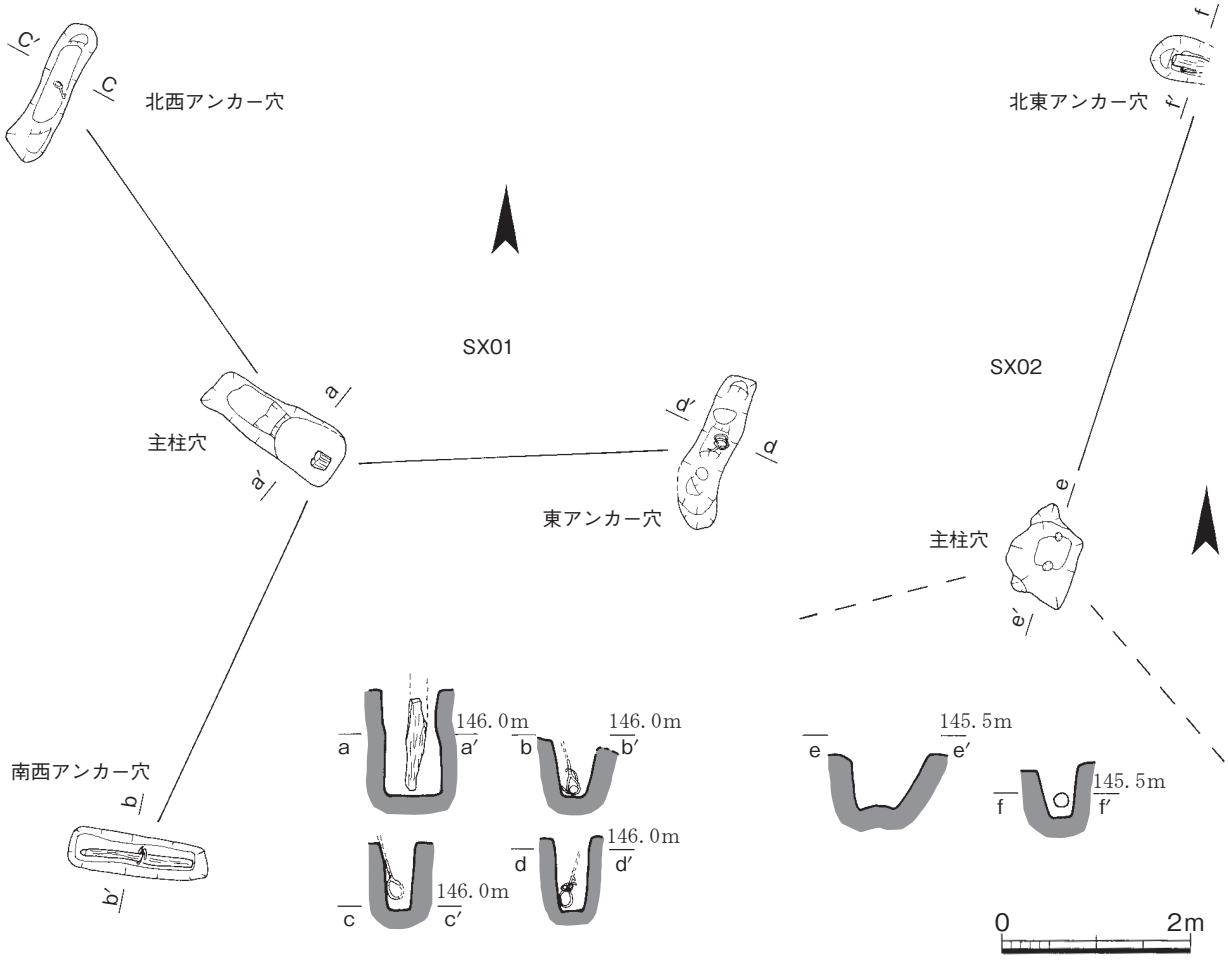
第６図　ピット列遺構実測図（1：60）



第７図　調査区北西ピット群遺構実測図（1：60）



第８図　溝群遺構実測図（1：60）



第９図　火の見櫓関連遺構実測図（1：80）

3　溝群（SD01 ～ 03・第 4，8 図）

調査区西端で確認された北北東―南南西方向に伸びる 3 条並列の溝である。長さ 6 m以上，幅約 50cm，深さ 25 ～ 45cm 程度を測り，中心間距離で約 1.2 m間隔に併行に築かれている。埋土に近世以降の陶磁器小片を含み，他のピット群を切って掘削されていることから，近世以降の遺構と考えられる。遺構の性格は不明である。

4　火の見櫓関連遺構（SX01，02・第 4，9 図）

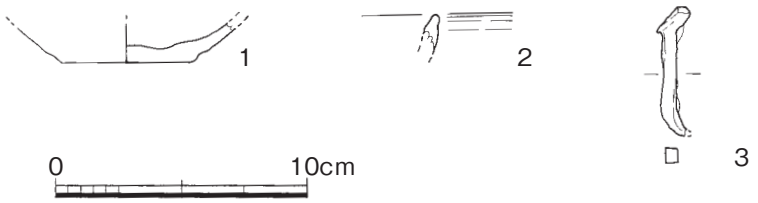
SX01 は昭和 20 ～ 30 年代頃まで当地に設置されていたという 1 本柱の火の見櫓関連遺構と推定される。中央の主柱穴は長辺約 160cm，短辺約 50cm，深さ約 120cm の掘り込みに直径 15cm 以上の主柱を立てている。主柱穴の埋土上層からは鋼線が破棄されたような状態で出土している。主柱より 4.5m 前後離れた 3 方向において，長さ 160cm 前後，幅 40cm 前後，深さ約 60 ～ 80cm の掘り込みがあり，底付近には横たえた丸太に地表から延びる鋼線が巻き付けられた状態で埋められていた。主柱のアンカーとして使用されたと思われる。

SX02 も同様な構造のものと考えられるが，調査区内ではアンカー設置に伴う掘り込みは 1 所しか確認できない。主柱穴の埋土上層からはやはり鋼線が破棄されたような状態で出土している。前後関係は明らかでないが，火の見櫓の建て替えに伴うものであろう。

5　遺構外出土遺物（第 10 図－ 2，3 ）

遺構外出土遺物はその大半が近世以降の陶磁器小片で，その他須恵器小片，土師器細片，鉄釘が確認される。全体的に出土遺物は非常に僅少で，図化可能な資料も少ない。

この内，中世以前で時期判断可能な資料として，須恵器片（第 10 図－2）がある。これは 8 世紀前後の杯口縁部と思われるもので，古代から当地が利用されていたことを示す貴重な資料である。



1：SP20 出土土師器　2：遺構外出土須恵器　3：遺構外出土鉄釘

第 10 図　出土遺物実測図（1：3）

第４章　結語

今回の調査地は，近代以降，畑，火の見櫓設置場所，木材の集材架線設置場所等として利用されてきたとのことであり，隣接地では近世から続く墓地も営まれていた。遺構としても時期不明のピット群，近世以降の溝群，昭和期の火の見櫓跡が確認されているのみで，その多くが前述の近世以降の土地利用に伴うものと思われる。ただし，SP16 では 13 ～ 14 世紀頃の中世土師器片も出土しており，ピット群の中には中世以前に遡る遺構が混在している可能性が高い。

現状では遺跡の性格も不明と言わざるを得ないが，調査区北西部，丘陵最高所を中心に深さ 50cm 以上の比較的深いピット群が集中すること，一部のピットで柱の痕跡が確認されることから，時期不明ながら，この付近になんらかの建物が存在していた可能性はある。

その他，遺構外出土遺物として，8 世紀前後の須恵器小片が発見されている。調査地は小丘陵の最高所に位置することから，周囲からの流入である可能性は低い。明確な遺構は確認できないものの，当該地が古代から人々に利用されてきた場所であったことが確認できた。中世以前の遺物包含層がほとんど残存していない中で，遺跡の上限を探る貴重な手がかりである。

以上，今回の調査成果についてまとめてきた。立岩小丸砦跡は，従来中世の砦跡として推定されていた遺跡である。しかしながら，今回の調査においては，古代以降の少量の遺物，時期不明のピット群等が確認されたものの，中世山城跡・砦跡としての積極的根拠を見出すことはできなかった。出土遺物についても戦国期前後のものは発見されていない。

ただし，立岩小丸砦跡は，立地としては朝原川を挟んだ対岸には立花城跡をはじめとする中世山城群が，背後には旧街道が存在する突出した小丘陵上にあり，谷の広範囲も見渡せる視界良好な場所となっている（第２図）。中世期の佐田町地域で数多くの山城や砦が築かれていることを考慮すると，当該地にも本来砦等が存在した可能性は排除しきれない。遺跡の性格については今後も慎重に判断をしていく必要がある。

図　版

立岩小丸砦跡遠景（東より）

本調査前近景（北西より）

図版２

完掘状況（北西より）

調査区北西ピット群完掘状況（北東より）

SP20 遺物出土状況（北より）

図版 4

ピット列（SP01 ～ 06）完掘状況（北西より）

溝群（SD01 ～ 03）完掘状況（南西より）

SX01 主柱穴（北西より）

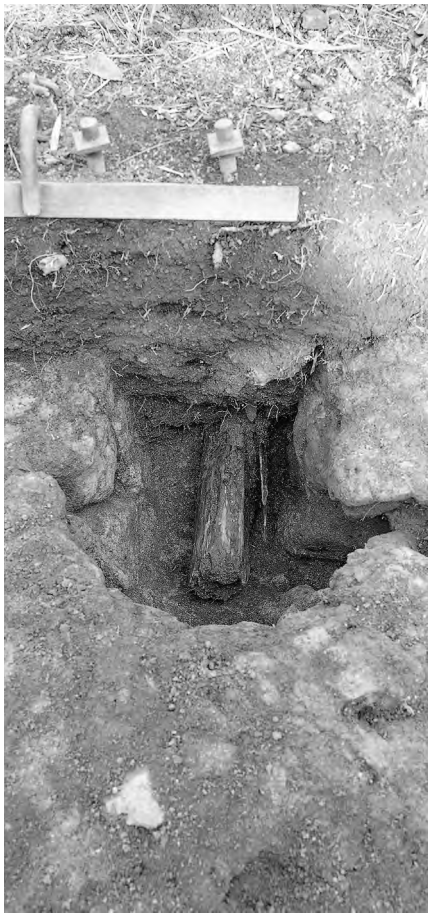
SX01 南西アンカー穴（西より）

SX01 北西アンカー穴（北東より）

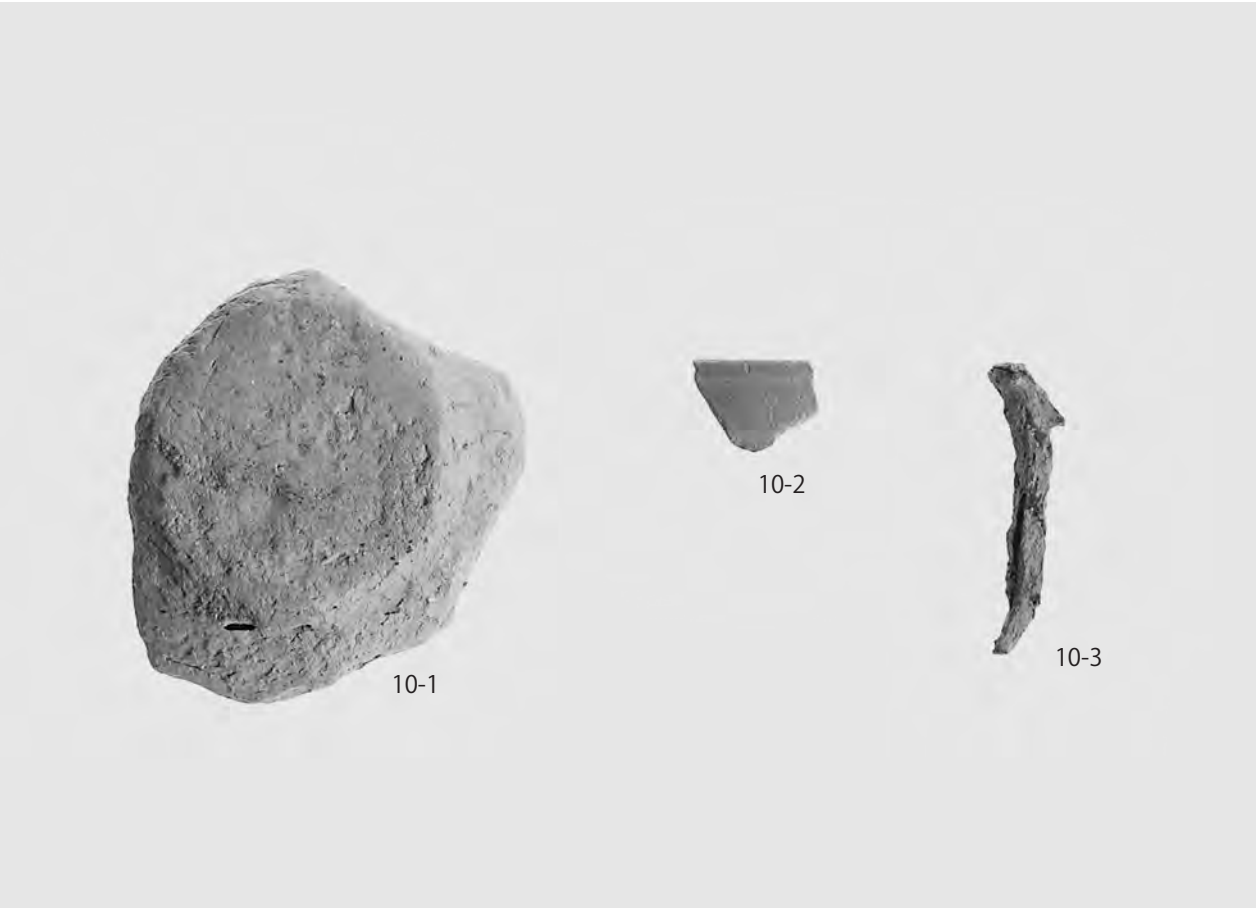
SX01 東アンカー穴（北東より）

図版 6

SX02 主柱穴（西より）



SX02 北東アンカー穴（西より）



出土遺物

報告書抄録

フリガナ	タチイワコマルトリデアト
書　名	立岩小丸砦跡
副書名	一般県道三刀屋佐田線朝原２工区道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	出雲市の文化財報告
シリーズ番号	第 29 号
編著者名	須賀照隆
編集機関	出雲市市民文化部文化財課
所在地	〒699-0011　島根県出雲市大津町 2760 番地　TEL0853-21-6893
発行年月日	平成 28 年（2016）2 月 18 日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北　緯	東　経	発掘期間	発掘面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
タチイワコマルトリデアト 立岩小丸砦跡	シマネケン　イズモシ 島根県 出雲市 サダチョウ　スサ 佐田町 須佐 1615-5 外	32403		35°14′14″	132°44′42″	20140818 ～ 20141009	200 ㎡	道路改良工事

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
立岩小丸砦跡	城館跡	古代～近代	柱穴 溝 火の見櫓跡	須恵器，土師器，陶磁器 鉄製品	

要　約	当初想定していた中世山城跡・砦跡としての積極的な根拠は見出せなかったが，古代から近代にかけての幅広い時期の遺物が確認されており，古の時代から断続的に人々が利用し続けてきた場所であったことが判明した。

平成 28 年(2016) 2 月 18 日発行

出雲市の文化財報告　29

一般県道三刀屋佐田線朝原２工区道路改良工事に伴う
埋　蔵　文　化　財　発　掘　調　査　報　告　書

立岩小丸砦跡

発　行　　出　雲　市　教　育　委　員　会
島根県出雲市今市町70

編　集　　出雲市　市民文化部　文化財課
島根県出雲市大津町2760

印　刷　　株式会社 報　光　社
島根県出雲市平田町993